

平成26年8月13日  
海事局船舶産業課

## 第4回日伯官民ラウンドテーブルの開催結果について

8月11日、ブラジル・リオデジャネイロにおいて「第4回日伯官民ラウンドテーブル」を開催し、ブラジルの造船・海洋開発市場に進出した我が国の海事関係事業者が直面する課題について、両国から行政機関、海洋開発・造船・舶用品関連の企業・団体に加え、商社・金融等の企業の参加も得て情報・意見の交換を行いました。

今次ラウンドテーブルにおいては、我が国造船企業等のブラジル造船企業への出資決定、今月安倍総理訪伯時に行われた日伯首脳会談における造船協力に関する意見交換等、前回（平成25年8月開催）以降の官民の取組、ブラジルにおける造船産業のためのサプライチェーンに関する課題に関して情報・意見交換が行われるとともに、日本の船用事業者による製品紹介が行われました。

8月1日には安倍総理とルセフ・ブラジル大統領から日伯間の造船協力に関する首脳声明が発表されるなど、両国間の造船分野での協力関係は益々強くなっており、今回のラウンドテーブルを通じた情報・意見交換は、両国間の海洋開発・海事産業の発展に大きく寄与することが期待されます。

（別紙参照）



### 【問い合わせ先】

国土交通省海事局船舶産業課 中川、梅崎

（代表）03-5253-8111 （内線）43-653、43-612

（直通）03-5253-8634 （FAX）03-5253-1644

### 【ラウンドテーブル概要】

1. 日程：平成26年8月11日（月）14:00～18:30（現地時間）

2. 場所：ブラジル・リオデジャネイロ

3. 出席者：

日本側：国土交通省海事局船舶産業課、在リオデジャネイロ総領事館

造船事業者（三菱重工業、アトランチコスル造船所（IHI/ジャパン マリンユナイテッド）、三井造船）

船用事業者（シンコー、ダイハツディーゼル、ナカシマプロペラ、西芝電機、日本ペイント、日本ペイントマリン、日本無線、福井製作所、三菱重工船用機械エンジン、ムサシノ機器、ヤンマー）

海運事業者（川崎汽船）

商社（伊藤忠、富士貿易、フジ・メタロック、丸紅、三井物産、三菱商事）

国際協力銀行（JBIC）、日本船用工業会、日本海事協会、J-DeEP 技術研究組合、日本基幹産業労働組合連合会、シグマックス

ブラジル側：開発商工省、Petrobras、ABIMAQ（ブラジル機械工業会）、Aliança 造船所、Amec Kromav、Protubo、SINAVAL（ブラジル造船工業会）

### 4. 主な議題

- ・ペトロbrasの事業・投資計画
- ・ブラジル政府が定めるローカルコンテンツ規制の内容
- ・船用製品のうち、現在ブラジル国内で調達できるものとできないもの
- ・三菱重工および IHI 等による現地造船所への出資と現地での建造の改善状況
- ・日伯間の造船協力に関する首脳間共同声明など、政府間の動き
- ・海洋開発案件に対する（株）海外交通・都市開発事業支援機構の活用可能性
- ・ブラジル造船人材育成のための JICA 技術協力プロジェクトの進捗状況（9月をめぐりに国土交通省から長期専門家をブラジル開発商工省に派遣）

特に、ブラジルにおける造船サプライチェーンに関して、現地進出した我が国造船企業からは、生産性向上により労務費が下がるにつれて、船価の一定割合で決まっているローカルコンテンツ規制（国内調達）を満たすため、購入製品のうちブラジル国内調達分を増やす必要があることが、課題として提起されました。

また、ペトロbras等のブラジル側出席者からは、造船産業分野における低い生産性が、同国の海洋資源開発プロジェクトの遅れに繋がっているとの問題提起や、技術者の不足などの課題と同時に、船用事業者との協働の必要があるとの提案がありました。さらに、部品の安定供給等を考慮してブラジル国内に対応拠点をもちサプライヤーを選択する志向が強いため、我が国船用事業者に対して、現地進出への強い期待が示されました。